令和6年度 とやま新時代創造プロジェクト学習推進事業
実施報告書【学校課題実践校用】

学校番号	30
学校名	富山県立志貴野高等学校

学校の現状と課題	本校生徒の成育歴、学習歴、家庭環境は多様で、いろいろなつづきや事情を抱えることから様々な経験が乏しい生徒が少なくない。生徒一人一人がこれからの社会をたくましく生き抜き自己実現を図るためにも、実践的・体験的な活動を通して経験を増やす中で、生徒自身が自己理解を深め、自分自身の課題解決に主体的に取り組む力を育みたい。	
テーマ(特色)	実践的・体験的な活動を通じた主体的な課題解決力の育成と社会的自立を促す教育の推進	
設定した「テーマ」の達成状況	<ol style="list-style-type: none"> 心身の健康の保持増進に主体的に取り組む力の育成【保健・教育相談部】 <ul style="list-style-type: none"> 生徒が適切な知識を獲得し、主体的に考え生活を改善するための研修会や委員会活動等の実施 【総合ビジネス科】 <ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した販売実習等を通じた主体的な学びと実務スキルの伸長 地域の社会活動や生活産業理解を通して生活や産業の担い手としての意識向上【生活文化科】 <ul style="list-style-type: none"> 生活産業企業に携わるスペシャリストから学ぶ体験講座、意見交換等の実施 地域全体で子どもを支える取組を学ぶ講演会の実施 職業体験活動等を通して進路意識の高揚【夜間部】 <ul style="list-style-type: none"> テーマに基づく事前学習や地域資源と連携した職業体験講座の実施 	
実施内容(具体的に記入する)	<ol style="list-style-type: none"> 保健教育相談部 <ol style="list-style-type: none"> (1)心身の健康に関する研修会の実施(講師:富山国際大学子ども成育学部教授 大平泰子氏) (2)生徒保健委員会による調査・研究・発表と実際の生活改善策の提案 <ul style="list-style-type: none"> 研究テーマを「ストレス」に設定し全校生徒を対象としたアンケートを実施 文化祭での調査・研究成果の発表並びにストレス解消を提案する「リラク্সルーム」を運営 生活改善策(「ストレスとの付き合い方プロジェクト」)の提案と事後アンケートの実施 スクールカウンセラーによる「対人関係」「SOSの出し方」に関する研修会の実施 総合ビジネス科 <ol style="list-style-type: none"> (1)事前学習・準備 (2)販売活動実施 (3)事後学習 生活文化科 <ol style="list-style-type: none"> (1)スペシャリストに学ぶ1～暮らしを彩る生活産業～ 職場見学(中越レース、御菓蔵) (2)スペシャリストに学ぶ2～地域の伝統文化を学ぶ～ 特別授業(講師:とこなつ本舗大野屋 大野悠氏) (3)地域全体で子どもを支える取組を学ぶ講演会(講師:富山県子どもほっとサロンネットワーク会長 田辺恵子氏) 夜間部 <ol style="list-style-type: none"> (1)事前学習(自己分析) (2)車いす清掃体験、室内清掃体験(講師:一般社団法人Ponteとやま 就労支援企画室 加藤知道氏ほかクリーンチームスタッフ) (3)事後学習(体験講座の振り返り) 	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	<ol style="list-style-type: none"> 保健教育相談部 <ul style="list-style-type: none"> 生徒保健委員会では、各係協力して調査・研究活動に取り組むことができた。 心身の健康に関する研修会を通し、ストレスに対するセルフケアの方法を具体的に学ぶことができたとともに、心身の健康を保つために生徒自ら主体的に考える契機となった。 生徒保健委員会の取組に対する事後アンケートでは約9割の生徒が「ストレスとの付き合い方を考えるきっかけとなった」「今後も生活改善に取り組みたい」と回答した。 一連の取組は、生徒の健康に対する意識の向上や自己効力感の育成に役立った。 総合ビジネス科 <ul style="list-style-type: none"> 活動全般を通して、ビジネスコミュニケーション、簿記、ビジネス計算等を総合的に学べ、実務スキルを身に付けることができた。 自分の役割に主体性と責任を持ち、協働的に進めることで、ビジネス活動の基礎を学ぶことができた。 生活文化科 <ul style="list-style-type: none"> 職場見学を通して地域の生活産業や課題について体験的に理解した。 職場見学や講演会、特別授業等を通して地域生活や産業の担い手としての意識が向上した。 夜間部 <ul style="list-style-type: none"> 一連の活動を通し自分の長所や特徴を知り自己理解が深まった。 清掃技術体験時には周囲とコミュニケーションを図りながら一つ一つの活動に取り組んだ。 講義や清掃技術を通して職業への理解が深まり働くことについて主体的に考える契機となった。 清掃技術体験を通して自分に求められていることを理解し行動に移すことの重要性を学び実践することができた。 	
対象者(学年・人数など)	全校生徒【昼間単位制Ⅰ部 111名、Ⅱ部 58名(うち、総合ビジネス科販売実習対象生徒1年次4名、生活文化科43名)、夜間単位制 21名】	
実施実績	4月	
	5月	【生活文化科】地域で子どもを支える取組を学ぶ講演会
	6月	【保健教育相談部】アンケート作成・実施 【総合ビジネス科】取引業者決定
	7月	【保健教育相談部】アンケート集計・考察 【総合ビジネス科】担当生徒決定 【生活文化科】職場見学
	8月	【保健教育相談部】アンケート集計・考察 【総合ビジネス科】仕入交渉、出資協力者説明会、出資金募集
	9月	【保健教育相談部】心身の健康に関する研修会、事後アンケート、研究活動
	10月	【総合ビジネス科】出店申込、販売練習、POP広告制作
	11月	【総合ビジネス科】納品、販売実習、決算、文化祭での取組発表
	12月	【保健教育相談部】生活改善に取り組むホームルーム活動、「対人関係」「SOSの出し方」に関する研修
	1月	【生活文化科】外部講師による特別授業
2月	【夜間部】「はたらく体験講座」、事前学習・事後学習	
3月		